

IADI APCR 国際コンファレンス 預金保険機構三井理事長歓迎挨拶
(仮訳)
2023年5月30日(火)
於 福岡

皆様、お早うございます。

López 会長、中島長官、スピーカーの皆様、ご列席の皆様、ご参加いただき有り難うございます。また、国内外からオンラインで参加されている皆様の参加を歓迎します。

IADI APCR 国際コンファレンスをここ福岡で開催し、皆様をお迎えできることを大変光栄に思います。

ご承知の通り、今月初め(5月5日)には、WHO が Covid-19 パンデミックに係る緊急事態の解除勧告を発出しました。日本においても最近海外から相当数の観光客が来日するなど、Covid-19 パンデミック以前の日常を取り戻しつつあります。

大変喜ばしいことですが、長期にわたる Covid-19 パンデミックの拡大の影響が、地政学リスクの高まりなどとあいまって、社会の不確実性を増したことにも十分に留意する必要があります。

近年、経済活動のグローバル化やデジタルイゼーションを背景に、金融活動や金融機関業務の国際化・多様化・複雑化が急速に進展しています。特にデジタルイゼーションにより、金融取引や情報拡散の高速化は Covid-19 がまん延する中であってむしろ更なる進展を見せており、こうした動きは、金融機関にとっては、金融サービスの高度化と顧客利便の向上をもたらすチャンスである一方、金融機関経営及び金融システムの健全性維持に対し、新たな課題を投げかけています。

国際的な動向に目を向けますと、今春、米国では複数の銀行が立て続けに経営破綻しましたが、その要因のひとつに SNS 等によりネガティブな投稿が拡散されネットバンキングを通じ短期間に急激な預金流出がおこったことがあげられています。また、欧州においては、スイスを拠点とする大手金融機関が、経営不安によって同業他行に買収されるなど、金融環境の不安定化が見られました。

私は、こうした不確実かつ変化の激しい状況下であるからこそ、我々預金保険機関は、預金者保護や破綻処理などの自らの使命を確実に果たすことが求められていると認識しています。また、言うまでもないことですが、金融セーフティネット機関間での国際的な協力の重要性も一層高まっています。

こうした認識に立って、本日のコンファレンスは、預金保険機関の「伝統的ツールを刷新し、新たなアプローチを統合する」ことを目的とした議論の機会にできればと

考えています。

具体的には、

第1セッションでは、“新時代のトレンドと潜在的なリスク”について、「グローバル」と「リージョナル」のそれぞれの視点から（登壇者の）考えを共有していただきます。

第2セッションでは、IADIの各地域の預金保険機関に登壇いただき、“進化する預金保険機関”のテーマで新しいツールやアプローチを中心に預金保険機関を進化させる取組みを紹介していただきます。

第3セッションでは、“新時代に向けた地域協力の強化”のテーマで、「リージョナル」の視点に立った調査と能力開発について、アジア太平洋地域の各分野の専門家から説明をしていただく予定です。

各セッションにおいては、各登壇者の豊富な経験に基づいた深遠な知見を共有する機会になると確信しています。皆さんの活発な意見交換を通じて、APRCにおける課題を共有し、各法域での解決策に繋げるとともに、IADIのネットワークを通じ、グローバルな視点から金融システム安定の維持に積極的に貢献していくことに繋がれば幸いです。

最後に、今回の開催地である福岡について簡単に言及したいと思います。福岡はアジア各国と地理的に近いという事情から、古くからアジア地域との交流の窓口として機能してきました。その意味で、今回、APRCの公式イベントをこの地で開催すること自体に意義があると感じています。

福岡は、国内有数の中核都市ですが、自然に恵まれ、食べ物も美味しいという特徴も兼ね備えています。短い滞在にはなるとは思いますが、皆さん、当地での時間を是非堪能して下さい。

イベントの成功と、皆さんの滞在が実り多いものになることを願って私の挨拶を終わります。

ご清聴に感謝します。